

## 古代アナトリアの文化編年の再構築

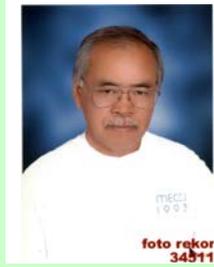
—カマン・カレホユックにおける前3～2千年紀の文化編年—

Reconstruction of the Cultural Chronology in Ancient Antolia

— Kaman-Kalehöyük from third to second millenium B.C. —

大村 幸弘 (Sachihiro Omura)

(財) 中近東文化センター・学術局・主任研究員



研究の概要 古代アナトリアの文化編年は、19世紀末から20世紀半ばにかけて欧米が中心となり構築されてきた。しかし、1960年代以降、発掘調査が盛んに行なわれるようになりそれまで築かれた文化編年に歪みが生じ始め、その是正の必要性が叫ばれていた。本研究では、前3～2千年紀の文化編年を中央アナトリアの中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡で構築することが主目的である。

基盤研究 (S) 研究 (2) 部—文学 分科—史学 細目—考古学  
キーワード—アナトリア、文化編年、再構築、カマン・カレホユック

### 1. 研究開始当初の背景・動機

考古学の基盤は層序であり、それを基に研究は進められてきている。しかし、1980年代以降アナトリア考古学界では、層序によって築かれた「文化編年」に修正を加える必要が叫ばれていた。確かに、アナトリア考古学の基本と言われていた「文化編年」は、20世紀前半に構築されたものであり、一日も早い修正を施す必要性はあった。当該研究では、カマン・カレホユック遺跡において、多くの問題点を含む前3～2千年紀の「文化編年の再構築」を行なうことにより、アナトリア考古学研究、中近東考古学研究、歴史学研究に一石を投じることが当初の動機としてあった。

### 2. 研究の目的

前3～2千年紀の「文化編年の再構築」を行うことにより、古代アナトリアが古代中近東世界、古代南東ヨーロッパの狭間に位置するアナトリアが歴史的、文化的にどのような役割を演じたかを解明することが当該研究の目的である。

### 3. 研究の方法

「文化編年の再構築」では、カマン・カレホユック遺跡に3発掘区—北区、南区、城塞区—を設置した。発掘区は、10mx10mを1発掘区とし、その中には5mx5mのグリッド—発掘区の最小単位—を設け、調査では、アナトリア考古学では殆ど採用されていない「仮層」を採用した。「仮層」とは、土色、出土遺物、建築遺構の変化等によって仮の層位を設定する方法である。また、これと平行する形で、ハリスマトリックス、炭化物分析による年代測定も用いながら層序の年代付けを行なった。

発掘調査を行なうにあたり、遺物出土地点を明確にするためのレベル、出土遺物を整理するためのコンピューター及びプリンター、整理の後、保存を行なうためのシステム実態顕微鏡、また、検出した建築遺構の撮影用に空撮用気球を購入した。

### 4. 研究の主な成果

当該研究の目的は、「文化編年の再構築」であり、北区を中心に発掘調査を進めた。1985年、考古学的予備調査を行い、この遺跡には約5500年の文化が包含されているとほぼ推測することができた。1986年に第一次発掘調査を開始、2001年の第17次発掘調査までに、4文化層—第I層、オスマン時代、第II層、鉄器時代、第III層、中期・後期青銅器時代、第IV層、前期青銅器時代—をそれぞれ確認することができた。17年におよぶ発掘調査で、以前から浮上してきていたアナトリア考古学

の問題点が明らかとなり、それらをテーマに研究を進めてきている。

第21次カマン・カレホユック発掘調査では、次の2点に焦点を合わせた。第一番目は、ヒッタイト帝国時代以降の層序、第二番目は、印欧語族の移動時期である。ヒッタイト帝国の崩壊の背景には諸説あるが、カマン・カレホユック発掘調査



カマン・カレホユック北区

#### [ 4. 研究の主な成果 (続き) ]



カマン・カレホユック南区

では、これまでの仮説を指示するだけのものは確認されていない。帝国時代以降の「暗黒時代」にその解明の糸口があると考え、調査を進めている。特に、今シーズンはヒッタイト帝国時代以降の文化層を調査することにより、帝国時代の終焉の背景を追うことが可能と考え、南区でこのテーマを取り扱った。しかし、今回の調査では、終焉の背景を探るだけの明確な根拠を探し出す事は出来なかった。また、印欧語族の移動時期に関して北区の V～VII 区で調査を行なった。アッシリア商人が中央アナトリアに入り始めたのは、第 IIIc 層以前、つまり、第 IVa 層であることが今回の調査でも明らかになった。さらに、この第 IVa 層に帝国時代に多用される土器の原初形態を確認した意義は極めて大きい。今回の調査で、印欧語族の本格的移動時期は、第 IVb 層末から第 IVa 層初頭の可能性がある。

#### 5. 得られた成果の世界・日本における位置づけとインパクト

これまで日本独自の「文化編年」を構築しておらず、常に欧米の「文化編年」を下敷きとして研究を進めて来たことを考えると、カマン・カレホユックで確立されつつある新たな「文化編年」は、今後の古代中近東研究に新視点を与えるものと考え。特に世界的にみても、アナトリア考古学研究の中で、これまで言われてきた「暗黒時代」の解明には大きく寄与するものと考え。

#### 6. 主な発表論文

(研究代表者は太字、研究分担者には下線)

##### 1) 大村 幸弘

- "Preliminary Report on the 20th Excavation at Kaman-Kalehöyük (2005)," *Anatolian Archaeological Studies (AAS)* XV, pp.1-61, (2006)
- "Preliminary Report on the 19th Excavation at Kaman-Kalehöyük (2004)," *AAS* XIV, pp.1-54, (2005)
- "Preliminary Report on the 18th Excavation at Kaman-Kalehöyük (2003)," *AAS* XIII, pp.1-35, (2005)

- 『アナトリア発掘—カマン・カレホユック遺跡の二十年』 日本放送出版協会 (2004)
- "2001 Yılı Kaman-Kalehöyük Kazıları," *XXIV Kazı Sonuçları Toplantısı (KST)* I, pp.11-16, (2003)

##### 吉田大輔

- " "Mittelhethitische' Siegfunde von Kaman-Kalehöyük," *AAS* XV, pp. 151-162, (2006)
- "Die hethitische Glyptik von Kaman-Kalehöyük– Siegfunde vom 'Rundbau' I aus dem Jahre 1995 " 平成 12～15 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) (2) 『キュルテペ出土の粘土板文書及びカマン・カレホユック出土の印影の保存修復と研究』研究成果報告書 第 V 章、(2005)
- 「ヒッタイトの太陽神」松村和男・渡辺和子編 『太陽神の研究』下巻 宗教史学論叢 8、pp. 63-82、(2003)
- 「ヒッタイトの王印—ヒッタイトの王権観に寄せて—」角田文衛／上田正昭監修『古代王権の誕生』III 中央ユーラシア・西アジア・北アフリカ編、pp. 170-184、(2003)
- " "Ein Altassyrischer Text aus Kaman- Kalehöyük." *AAS* XI, pp. 133-137, (2002)

##### 中井 泉

- K. Fukuda, K. Kumagai, K. Kashima and I. Nakai, "Demonstration of a Rapid Ground Penetrating Rader Survey at Kaman-Kalehöyük ," *AAS* XV, pp.197-201, (2006)
- K. Kumagai, K. Fukuda and I. Nakai, "A Brief Report on Magnetic Survey of the Area Surrounding Kaman-Kalehöyük in 2005," *AAS* XV, pp.203-206, (2006).
- K. Shiraiishi and I. Nakai, "The Production Technique of the Fine Black Polished Wares from Kaman-Kalehöyük, Part 2" *AAS* XV, pp.255-261, (2006)
- 「物質史から過去を読む—鑑定の科学—」『学術月報』第 59 巻、第 3 号、pp.37-44、(2006)
- M. Masubuchi and I. Nakai, "Scientific Characterization of Metallurgical Slag Excavated from Kaman-Kalehöyük (1)," *AAS* XIV, pp.183-194, (2005)

ホームページ等

<http://www.jiaa-kaman.org>

<http://www.meccj.or.jp>